

ツユクサ科の分類学@ひとはく 1年目

「シマツユクサ」は1種じゃなさそう



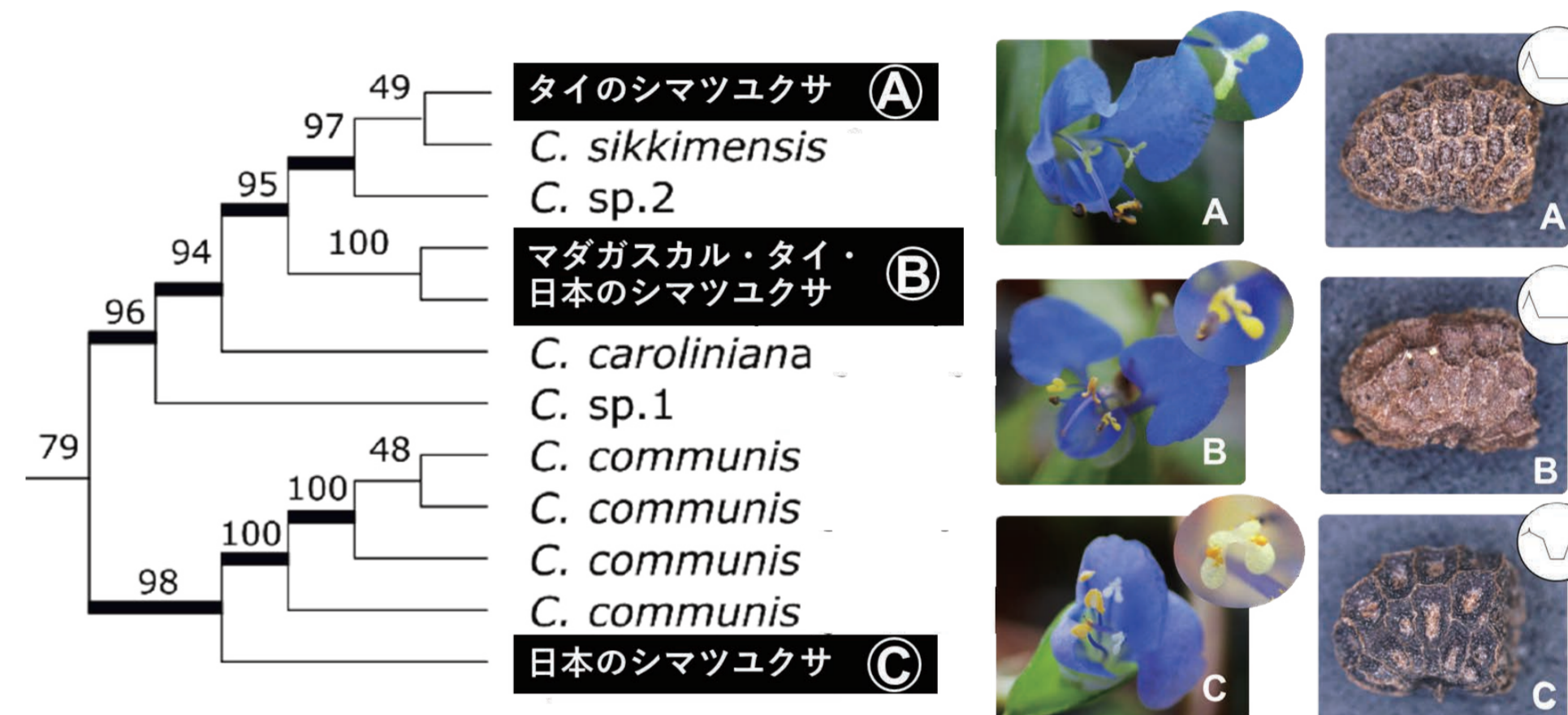
自然・環境評価研究部 系統分類研究グループ

李 忠建

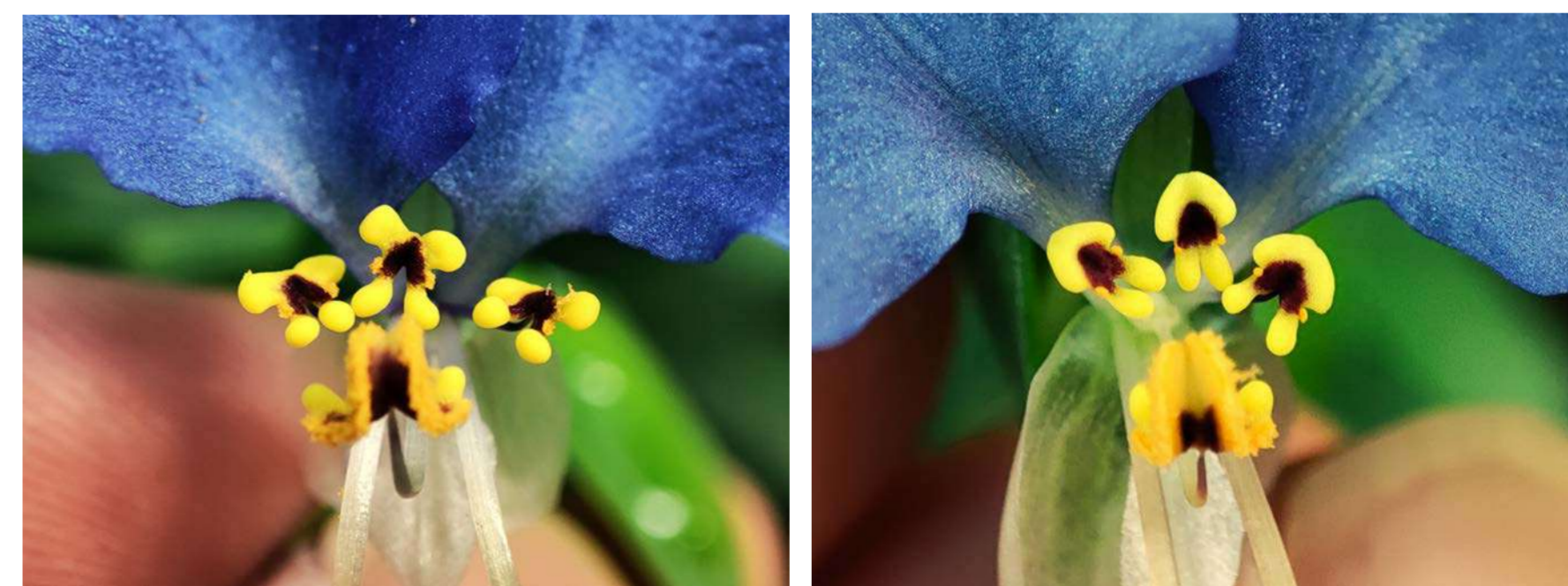
私は、アジアのツユクサ科について調べています。日本でのツユクサ科のイメージは、ツユクサがいたるところで青い花を咲かせ、愛でられたり駆除されたりする、といったところですが、ツユクサ科は基本的に熱帯に多い植物で、世界には約40属650種、日本には5属13種があります。

近年、ツユクサに近縁な「シマツユクサ」という植物が、本州で見つかるようになってきました。シマツユクサはもともと南西諸島からも見つかっていて、世界中の熱帯にいるということになっていました。いかにも怪しい感じです。花や種子の形態を調べ、DNAを解析してみると、どうも日本国内だけでも2種はあるらしいことがわかってきました。

ツユクサ科には似たような問題が山積みです。もちろん簡単には行かないのですが、まずは一番身近なツユクサの問題をやっつけたいと思います。続きは来年のパネルで。



シマツユクサの系統樹と形態比較。特にCのものが大きく異なる。系統樹は葉緑体のもの。核DNAではもっと面白い結果が出ているが、その分複雑なため追加解析が必要。



普通のツユクサ。同種なのに、繁殖干渉の研究に使われた。